

春まき小麦「春よ恋」を倒さずに穫る

概要 Abstract

春まき小麦「春よ恋」は植物成長調整剤を1回散布し、生育診断に応じた幼形期・開花期追肥の実施で、倒伏回避と増収・高タンパク化を両立できます。

この栽培法なら倒さず増収・高タンパク化

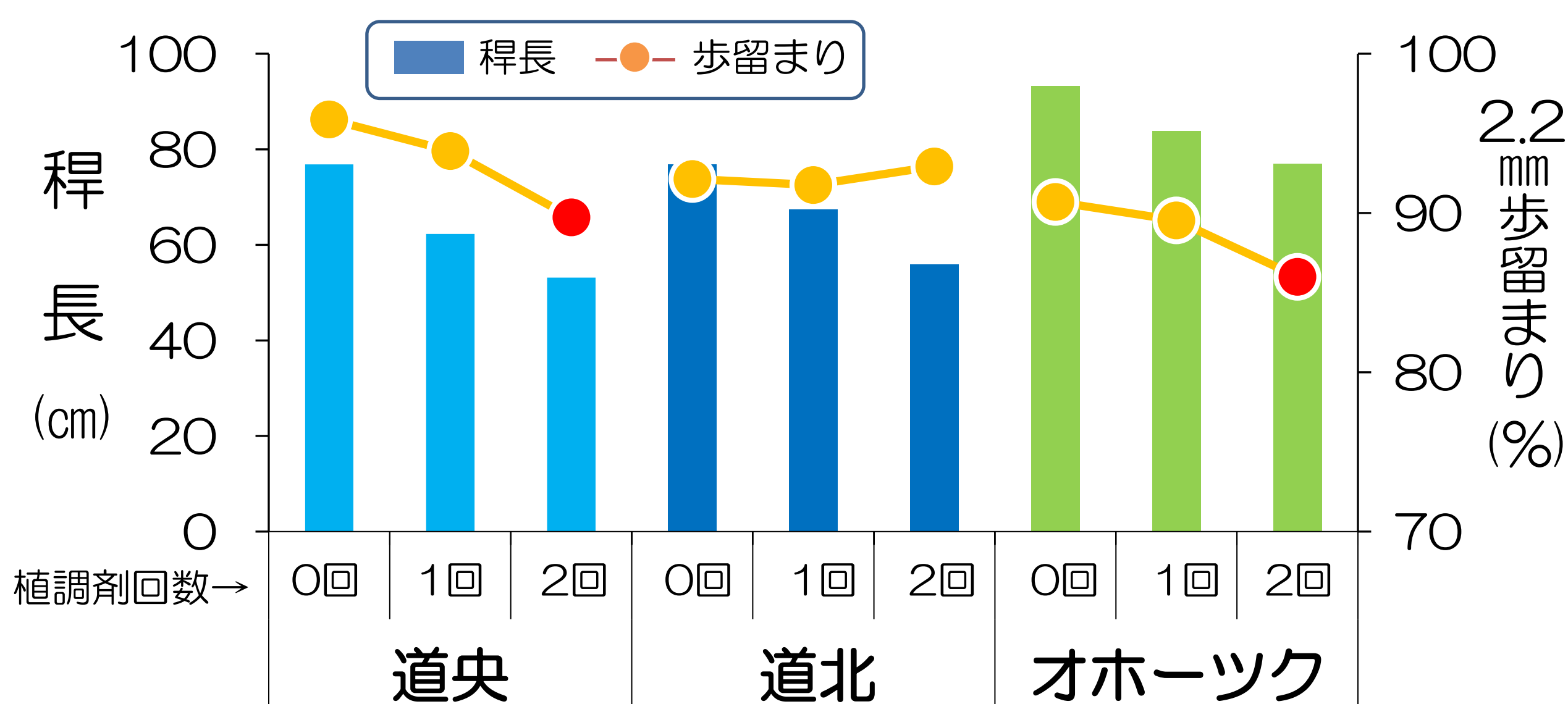


「春よ恋」は倒すと大幅減収



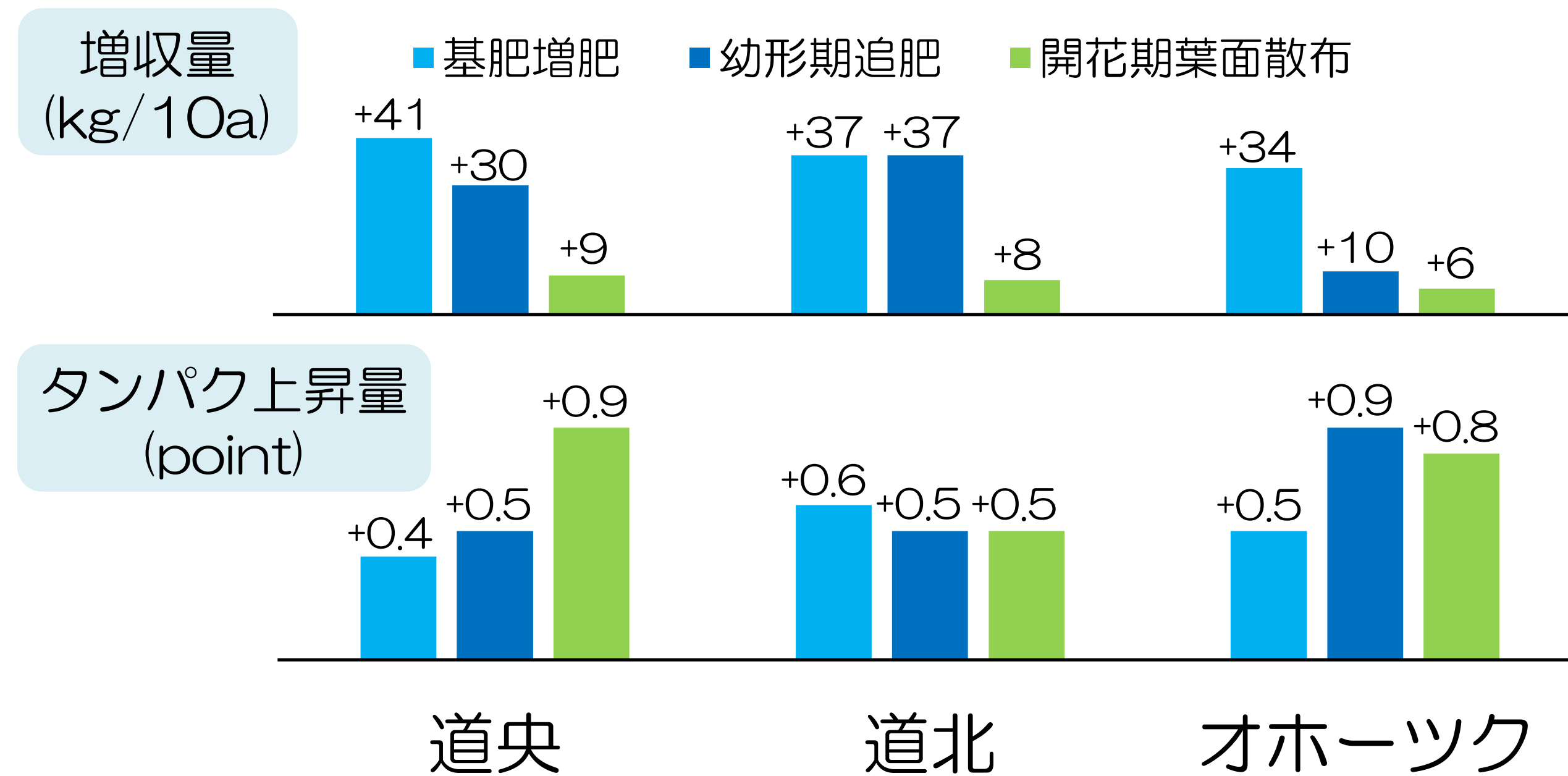
成果 Results

● 植調剤散布回数は原則1回



植調剤散布で稈長低下 → 倒伏のリスク低減
2回散布では歩留まり低下、成熟遅延の恐れ

● 基肥増肥・追肥時期別の増加効果



幼形期追肥・基肥増肥 → 増収・高タンパク化
開花期葉面散布 → タンパク上昇

● 幼形期生育診断

- 道央区分L、M、オホーツクはそれぞれ、幼形期茎数950、800、700本/㎡未満の場合に幼形期追肥が可能
- 道北は幼形期茎数診断が不要

● 倒さずに穫るための施肥量と目標収量

地域	目標収量	窒素肥沃度区分	窒素施肥（基肥+幼形期）			
		（熱抽窒素 mg/100g）	低地土	台地土	火山性土	泥炭土
道央	480	L（～5）	8+4	9+4		6+4
		M（5～10）	8+4	9+4		6+4
		H（10～）	8	9		6
道北	420	—	8+4	9+4		6+4
オホーツク	540	—	7+3	8+3		5+3

上記に加え、穂揃期生育診断に応じて開花期葉面散布を実施。葉の黄化が激しい時は減収リスクがあるため実施しない。

普及 Dissemination

- 基準収量を達成している圃場で、増収・高タンパクを目指す場合に活用ください。
- 泥炭土への適用は、収量や倒伏等の過去実績を考慮して慎重に行ってください。

連絡先 Contact

中央農業試験場
農業環境部 生産技術グループ
0123-89-2001
central-agri@hro.or.jp